

留学のてびき

0) はじめに

私は、2011年の2月度のクリニカルクラークシップでオランダのフローニンゲン大学に一ヶ月お世話になりました。オランダでの生活やオランダでの実習について、Yさんの詳しい資料がございますので、Yさんの資料を補完する形で、書かせていただきます。そのため、報告書というよりエッセイ風になってしまうかもしれませんが、そのほうが生の体験が伝わりやすいと思いかからそうさせていただきますこと、ご了承ください。

1) オランダへ？

Yさんもお書きのとおり、なぜオランダへ？という質問がよくありました。その言外にはなぜアメリカではないのか？という質問も含まれている気がしました。

自分がオランダの医療に興味を持ったのは以下の理由です。

ここ10年くらいで、急加速した市場主義経済は規制緩和の賜物ともいえます。厳密な形での市場主義経済ではかならず市場における敗者が出るということが想定されており、それらを憲法における基本的人権の尊重に代表される人権規定が補完し、市場から除外された人々の救済にあたります。それらで医療制度や生活保護の考え方も支えられています。

日本の経済は急速な曲がり角を向かえ、対策として急速な規制緩和で乗り切ろうとしました。そのためたくさんの敗者を生み出しました。しかし、政府は高齢者や病気の人たちを救うための財源までも経済復興に向けたため、今までなんとかサービス残業によるマンパワーで耐えてきた医療現場が混乱に陥れられました。

そういった経済の隆盛と衰退を経験しつつ、あくまで社会福祉を基盤にした国家造りを行ってきたのが、イギリスを除くヨーロッパ諸国なのではないかと考えました。

ただ、日本ではヨーロッパの良い面だけを一方的に伝えて、裏の側面を伝えない傾向があることもなんとなく感じていました。ヨーロッパの人々が日本と変わらない医療制度を達成しつつも、経済水準は高いというなかで、限られた予算内で国民が何を我慢して経済成長と高福祉という一見矛盾する（少なくとも日本では矛盾した概念と捉えられている）両輪が達成されているのかを肌で感じたいというのが、今回の留学のきっかけです。

2) オランダと日本

大阪大学とオランダの関係は留学してからも時々聞かれます。私も良く知らなかったのので、インターネットで調べました。英語で答えられると便利かもしれません。

>>大阪大学とグローニンゲン大学の歴史的な結びつきは、グローニンゲン大学で医学を学び、明治維新前に日本を訪れたボードウィンに始まります。1870年頃に大阪大学の

前身である大阪医学校でボードウィンが医学の教鞭を取ったことは有名です。また、フローニンゲン大学で医学の学位を取ったエルメレンスは 28 歳という若さで 1870 年から 4 年間、大阪医学校で教えました。その講義録が日本語の本として残されています。エルメレンスの業績は吹田キャンパス銀杏会館の一階展示室に掲示されています。またその業績を称えた記念碑が医学部の玄関に建立されています。(大阪大学フローニンゲンセンターのホームページより)

では、エルメレンスとはどんな人だったのでしょうか？以下はインターネットからの抜粋ですが、三善さんの文章が非常にエルメレンスの人柄を表しているので、そのまま紹介させていただきます。著作権無視ですが。

(以下抜粋)

オランダ人医師ボードウィンと緒方洪庵の次男惟準（これもり）が創設した「浪華仮病院」（大阪大学医学部の先祖）に、ボードウィンの後任として赴任したのが、C・J・エルメレンスです。

彼は 1842 年オランダ生まれ。生まれつき好奇心が旺盛、旅行が大好きとあって、ぜひ研究室に残るよう勧められたのを断って、東洋の黄金の国ジパングとはどんな所だろうとなんでも見てやろう精神を発揮して、先輩ボードウィンの誘いによって明治 3 年（1870）大阪へやってきました。28 才のときです。

それから 7 年間教授を勤め、浪華仮病院が大阪府立医学校と改称され、日本を代表する医学教育の場に発展させるまで尽力します。その博学ぶりは大変なもので、眼科が専門のボードウィンとは異なって、多方面にわたりました。彼の講義内容は『生理新論』『原病学』『薬物学』『外科総論』『内科総論』『外科・内科各論』等十数冊にまとめられて刊行され、医学教育の重要なテキストとして日本各地で用いられています。

学問だけではなくありません。エルメレンスの気さくで明朗な性格も、人気の高い原因でした。とにかく周りにとけこむのが早いのです。風俗習慣のちがいを平気の平左、気おくれすることなく来日した翌日からあやしげなカタコトの日本語で話しかけ、西洋人のもっとも苦手とするミソ汁をがぶ飲みし、タクアンをボリボリかじってみせました。

ワサビをつけたサシミをうまいうまいとたいらげ、和服をズロリと着て日本式のあいさつをします。座敷の宴会にも喜んで出かけ、たいていの西洋人がしかめ面をする盃（さかずき）のやりとりもヘイチャラ、おまけに酔うと母国オランダの民謡を大声で歌いなが座敷中を踊りまわり、拍手と爆笑の渦をまきおこします。

当時の西洋人は文明先進国というプライドから、すぐにお国自慢をし、母国と日本を比較して社会の後進性を批判、また日本人もおそれ謹んでお説を拝聴する風潮にありました。ところがエルメレンスは、患者に対しても「ニッポン ヨイクニ、ワタシダイスキ」

と話しかけ、親切丁寧に診察し、しかも腕は抜群ですから、誰もが尊敬します。大阪府立医学校（のちの大阪大学医学部）教授 C・J・エルメレンスは、気さくで明朗な人がらと大の日本びいき、しかも診療は親切で腕は抜群ときますから、巷（ちまた）にはエルメレンスファンがあふれていました。

鴻池善右衛門や住友吉左衛門らの富豪から、実川延若、中村宗十郎ら有名な歌舞伎俳優まで熱烈な心酔者で、健康でどこも悪いところもないのに彼の診察を受け、歓談して楽しんだといわれます。またエルメレンスは清潔な人格者でした。シーボルトやピンカートンはじめ、来日した西洋人たちはほとんど日本の女性をいつとき妻にして、帰国するときにたくさんの艶聞を残しています。ところが彼には全くそんな浮いた話はありません。「なにかとご不便でしょう。妻帯したらいかがですか」と周りが勧めますと、「トンデモナイ、オンナノヒトヲナカセルノハ イチバンイケナイコトデス」と、あわてて手を振りました。

明治 11 年（1878）任期の切れたエルメレンスは母国に帰り、オランダのハーグ市民病院の院長に就任します。ところが翌年の同 12 年フランスを旅行中、急病のためあつという間に亡くなります。時にまだ 37 才の早世でした。不幸な知らせを受けた大阪の人たちは心から悲しみ、遺徳をしのんで顕彰碑を建てることになり、募金活動をはじめます。知人や弟子たち、あるいは治療を受けた元患者たちが喜んで協力し、たった 3 ヶ月で軽く目標を突破、千円以上が集まりました。明治 14 年（1881）中之島（現・北区中之島 1 丁目）に大きな碑が建ちます。

（正面）FOR THE MEMORY OF DR,C・J・ERMERINS

（側面）阪谷朗盧撰の頌徳文

（銘）歐海万里 魂魄茫々 徳則靡渴 澗水与長

オランダ領事や川口居留地のバイヤーまで除幕式に参加、花火数百発が打ち上げられ、十数名の楽人が演奏する盛大なものでした。なおこのとき祭壇に掲げられた彼の肖像画は、複製されて 1 枚 35 銭でとぶように売れたそうです。また江戸堀（西区）の猪飼薬店からエルメレンス先生処方『ビートル散（健胃剤）』が売りだされ、これも好評でした。碑は昭和 11 年（1936）阪大医学部に移っています。

なんだかエルメレンス先生が大阪の町でいらっしゃるのが目に浮かぶような感じですね。エルメレンス先生はかなり成績優秀な方だったようです。

## 2) 泌尿器科へ

オランダへの渡航が決まると、診療科を先方から聴いてきました。2010 年は麻酔科だけでしたが、今年から内科も選択できるということでした。私は内科を志望ですので、内科系の希望科を書きました。

すると返事が来て、内科は無理だと。『あなたは泌尿器科か放射線科（心臓造影）を選べる。泌尿器科がベストな選択だと思います』というご親切なメールが来ました。すし屋で

も主人のお勧めを注文する人なので、そのまま泌尿器科を選択しました（笑）

では、なぜ先方が泌尿器科を進めたのか？というのは行ってから分かりました。

- 1) オランダでは外科が大人気で、外科医になるのが非常に難しいためオランダの生徒には退屈な内科よりも外科の泌尿器科の実習の人気の高いこと。
  - 2) 泌尿器科は月曜を除いて、火曜日～金曜日まで英語でカンファレンスを行っており、外国人でも内容が理解できるということ。また教授、助教授が非常に英語が上手であること。
  - 3) 教授、助教授を含めたスタッフ全員が陽気で明るく、科として雰囲気がよく麻酔科などからも好かれている。
  - 4) 患者さんは英語が話せない人が多いので、オペであれば実習になりうるということ。
  - 5) 腎移植をアクティブにしている。
- という理由が後から分かりました。

### 3) 泌尿器科の日々

朝は毎朝 7 時 30 分からカンファレンスがあります。月曜日はオランダ語でそれ以外は英語で行っています。電子カルテがオランダ語なので、情報は聴覚に頼るしかありません。私はセシルの編集版の泌尿器科を読んでいったくらいで臨んだので、はっきりいって専門用語は大変むつかしかったと思いました。Voiding や phimosis, incontinence など泌尿器基礎レベル単語はもちろん、scrotal などの解剖に関わる形容詞や hypospadiac, などの泌尿器疾患単語レベルが分かると 70% 以上理解できると思います。

私の大まかな予定をお書きしますので参考ください

2/7 前立腺ガンの冷却凝固療法×2

2/8 精管精管吻合×3

2/9 腹腔鏡下前立腺全摘、膀胱狭窄介助、精巣固定術

2/10 VUR+包茎手術、尿道下裂+包茎手術、精巣固定術

2/11 膀胱腔瘻×2、ペースメーカー摘出（過活動膀胱）、巨大陰嚢減圧

2/14 腎臓癌、尿道異物

2/15 腎移植

2/16 陰嚢水腫×2、静脈瘤、精巣固定術

2/17 膀胱瘻造製、尿道下裂、膀胱鏡×2、

2/18

2/22 尿道下裂、半陰陽の債権

2/23 腎癌腎摘

2/24 尿道下裂×2、内視鏡、水腎症

3/1 腎臓癌

3/2 陰嚢水腫×3

だいたいこんな感じで4週目終わりました。

このほかに **Functional center** といって腎生検などを行う部屋があったのですが、常にフローニンゲン大学の学生がクリクラでいたので、患者さんの意識があるなかで学生がぞろぞろいるのは好ましくないと言われ、先生や看護師さんからいわれたので、あまり行きませんでした。病棟は行っても良いとは言われましたが、言語的にかなり足手まといな雰囲気になったので、オペ中心に回る感じになりました。

もちろん清潔で入ることも数回ありましたが、**MRSA** 試験の結果が出てきたのが2/10前後だったので、それ以降しか入れませんでした。

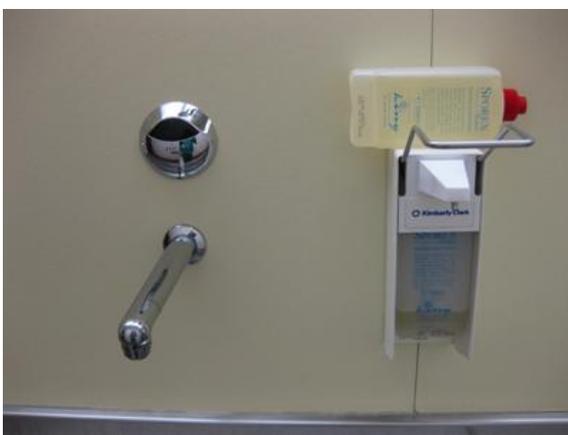
#### 4) 写真で見る一日の流れ

朝 7 : 30

カンファレンスルームでカンファレンスがあります。だいたい 30 分くらいで終わります。昨日のオペ、今日のオペ、病棟からの症例、気になる外来患者などを 30 分でさらっとします。



～オペ



8:30 手あらい



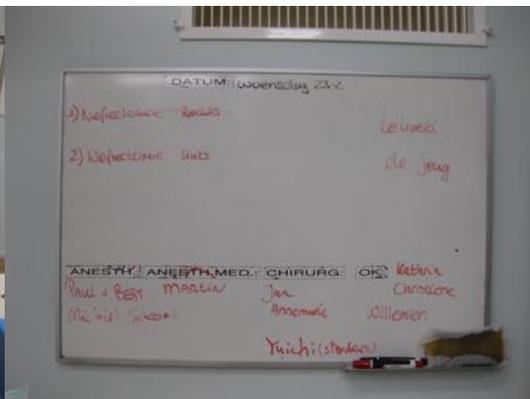
手洗いは手洗い場を見てもらうと分かるように、かなりざっくりしか洗いません。まず水であらって、ブラシで2分間洗って終わりです。タオルも日本からすれば、ぜんぜん清潔な感じではなく、拭く方向など全く関係ない様子でした。

タイムアウトテーブルはオランダ語で全く何を書いてあるか分かりません（笑）オペはだいたい、オペ看護師さんと、先生2人で行います。



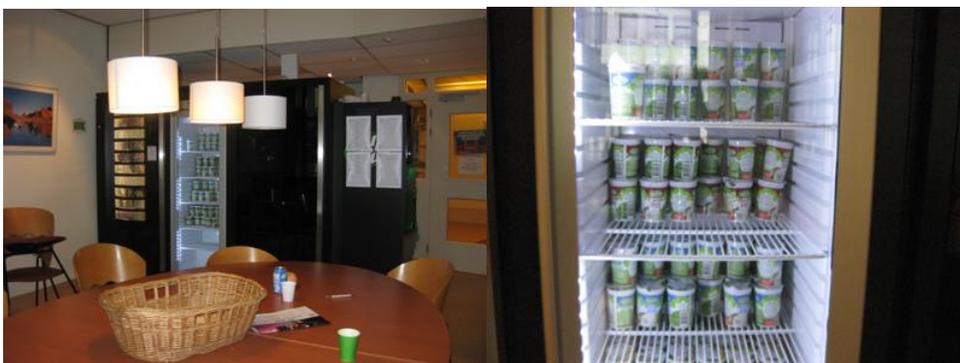
オペ看護師さんは、専門化しているのか、かなりオペの内容について知識があり、縫合糸を切る、凝固の電気メス、簡単なキンコー押さえなどかなりオペを手伝います。そのため、外周担当のときでもオペをしっかり見て研究しています。

縫合糸のカットの仕方はオペ看護師さんから学びますし、学生のオペに関する質問を先生の代わりに答えるときもあるのにはびっくりしました。



オペ修了～

オペが終わると、コーヒーと果物が食べ放題のコーヒールームに行きます。外科医は基本的には一日に2～5個のオペを行うので、一個おわるところにきて、導入が終わると看護師さんが呼びに来るというシステムになっています。なので、比較的優雅にオペをこなしていているように見えます。また一日にコーヒーを5杯以上飲む計算になります(笑)



コーヒールームにはコーヒーの他、スープの自動販売機(無料)があり、チキン、カレー、トマトスープ、マッシュルームの4種類から選べます。無料果物のりんごは、取り合いですぐになくなってしまいます。牛乳は飲み放題。多くの人がコーヒーに入れていますが、カルネミルクは飲むヨーグルトに似ていて、非常にすっぱいです。間違えてコーヒーに入れないようにしないとイケません。

また、昼時にはサンドイッチやハム、チーズの仮説売店が出来、オペ室の横にあるのに非常に不思議な感じです。日本でいうと、麻酔科カンファ室で食事をしているような状態です。



左の写真がノイマン教授で小児泌尿器の権威です。右が泌尿器科のみなさんで、女性の割合が多いのが印象でした。一年にフローニンゲン大学を卒業する医学生400人中数人しか

泌尿器医になれないそうで、壮絶な競争であると学生が言っていました。

#### 4) オランダでの生活について

留学という側面からはそれですが、冒頭の留学のきっかけにも書いたので少し。

オランダの生活の印象は、質実剛健。ぜいたくはあまりしていないというのが印象でした。フローニンゲンに限って言えば、ベンツや BMW の高級外車、ルイヴィトンなどのブランド品はあまり見ませんでした。周りがつけていないと逆につけるのが恥ずかしい雰囲気があり、つけている人を見ればアジア人だったりします（どこの新興国かはお勘弁ください・・・） 食事も昼はパンにチーズとハムをはさんだだけのお手製サンドイッチにコーヒー、りんごというのが周りの先生や看護師さんの昼食のスタンダードでした。職員食堂もだいたい 500 円くらいでした。外食は概して高いので、バー以外は特別な時にうまく使っているようです。食事はゆっくりで長く、ウェイトレスもなかなか注文を取りにこ来ません。そしてそれを呼び止めたり文句を言ったりする様子も見受けられませんでした。下手をすると 30 分近くメニューを選んでいる家族とかもいます。そして食事が来ると、3 時間近く話しながらゆっくり食べます。これが本場のスローライフなんでしょうか・・・。

あまり細かいことを言い合わないということが印象的でした。いかにシンプルにしているかを協力し合っている感じで、自分や家族の時間を作ることがいいことで仕事に追われることが悪いことのような雰囲気さえあった気がします。全体的にざっくりとしてますが、オペでもきっちりやらないといけないところは、モードがずっと切り替わる感じがあり、印象的でした。それ以外は、オペ室なのに歌を歌ったりされていました（笑）

責任を持たされた者が、効率的に動くため、働くときは年配若年問わずよく動き働かれます。特に年配の人々か自分でいろいろやるフットワークの軽さは、逆に恐縮してしまうことも多かったです。

税金が高いが、主食などの物価を累進的に抑えてあるので、オランダで生活する分には非常に暮らしやすそうに見えました。税金についても、『多く取られているが、還ってきていることが実感できるからかまわない』という意見が驚きでした。確かにスーパーでビール一本 80 円～160 円くらいだったので、それなりに楽しく生活できそうですね。

移民が非常に多かった。これは、オランダという国の歴史であり、オランダという国のアイデンティティであるといえます。それは医療現場でも同じでした。ただ移民資格を得るには 600 時間以上のオランダ語の研修と歴史や文化に関する試験に合格しなければならない等、抑え所を押さえてあるところがオランダらしいと思いました。また植民地を持っていた時代が長かったため、現代では奴隷ではなく移民をうまく社会の中で使っていくというノウハウに長けている気がしました。これは、オランダの繁栄の裏側面であるといえます。

#### 5) 最後に海外留学について

多くの海外に渡った先輩方の努力のせいか、日本人のことを知っている外国人の方々が  
多い気がしました。日本人のいいところ、すなわちきれい好き、礼儀正しい、きちりし  
ている、シャイなど他のアジア人と区別が付いている人もたくさんいます。

特に今までは、日本人の消極性についていろいろ言われてきましたが、日本人の特性を  
理解してくれていることが意外と多い気がしました。『日本人は前もって何もアピールをし  
ないが、きちりやる人たち』というコンセンサスが国際的に出来上がって来たのかなと  
感じました。だんだん、日本人が海外で活躍しやすい空気が醸成されてきていることを意  
味します。これは非常にありがたいことでした。もちろんこれらは先人の海外における努  
力のたまものだと思います。

後は、思い切り外国語をしゃべる根性さえあれば、何とかなると感じました。あるイタ  
リア人などは、イタリア語まじりの英語を平気で話してきます。僕からすれば、イタリア  
語にしか聴こえないその英語を、自分の英語は間違っていないという面の顔の厚さで話  
てきます（苦笑）ただこれは、日本人にも見習うべきところがあると感じました。日本人の  
英語は概してまずくありません。教育の方向もさほど間違えていないと思います。ただ母  
国語の発音上、舌の使い方が少し苦手なだけであるくらいで、あとは引け目を感じずに話  
せば伝わる、分からないのは他人のリスニング力のせいくらいの気持ちでいけば何とかな  
ると思います。

僕としては、海外の経験の少ない人がたくさんたくさんオランダを含め留学を経験して  
欲しいと思いました。